

4. 地域の言い伝え・おもしろ言葉

○『ごつつくの かげごっ』

御器作りの欠け御器。御器とは茶碗皿のこと。茶碗作りの欠け茶碗。紺屋の白袴などと同じ意味です。

○『さっといしけていぬいのなっ』

申酉時化て、戌亥の風。今日明日は嵐でも、のちには穏やかな風の日和がやって来ると意味の言葉。

○『ななっどっからさっのあめはやまん』

七つ時から降り出した雨はやまぬ（七つ時は今の夕方4時～5時を指す）。反対語『あさがんないは、ひのかんぱっ』朝の雷は晴れて良い天気になる。

○『SOY SAUCE（ソイソース）の由来』

江戸時代の終わりごろ、薩摩藩は七十七万石を維持させるために不足分を密貿易で稼いでいました。

長崎の出島経由で密輸の品物、黒砂糖、沖縄の珊瑚木綿等々、その中に樽詰の醤油がありました。初めて見る外国人に、「このソースは何か」と尋ねられ、薩摩人は「そい」ですと答えました。「そい」というソース。それがソイソースの語源となり、ヨーロッパや英国へ伝わり、現在では世界中に広まり、薩摩言葉が唯一英語になったという説が残っています。

○『めにつぐわんそ』

明日会いましょう。中国語のさようなら「再見」と同じ意味かと思います。

○『たっちんこめ』

ぐずぐずせずですぐやる。太刀の来ぬ前にと意味。

○『もへというへ（木灰）はこやし（肥料）になるが、いまからというから（穀）は、み（実）にならん』

農作物の準備等は早めが良く、時期に遅れないように心がけることを表した言葉。

びしゃごだけ
○『鵜岳に雲がかかれば雨になる』

松ヶ崎の天気予報の言葉。

○『まっどっ』

地引網等を巻き上げる道具で、戦闘機も巻き上げて格納していました。

○『ひとかたっ、くわんかったぐらいでほっそほっそゆな』

一片餉喰わぬ程度で愚痴をいうな。昔は朝餉・夕餉一日二食で、昼はなかったため、午後には小腹が空くのでおやつを食べました。

男子たるもの一食抜いたくらいで愚痴言わぬ。

武士は喰ねど高揚技と合い通じる言葉と思います。

○『さだくろがきた』

夏の午後突然激しく短時間降る雨を指します。

○『あとんからっがさきひんなった』

後の鳥が先になる。後輩が先輩を追い越して立派な人になること。

○『山からもどいのかいもん皮なし』

お腹が空いたら何でも美味しくいただけるという意味です。

○『ひとけだにはふて、ふたけだにはちんけ、めばっめばっ』

一切れには大きく、二切れには小さい、めばるといふ魚は。帯に短したすきに長しと同じく、中途半端を言い表すときに使います。